

**文部科学省特別経費「大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実」
(プロジェクト分)**

**平成 24 年度 附置研究所間アライアンスによる
ナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト
(略称：ナノマクロ物質・デバイス・システム創製アライアンス)
成果報告会開催報告**

平成 24 年度“ナノマクロ物質・デバイス・システム創製アライアンス成果報告会”を 2013 年 4 月 23 日 (火) に北海道大学学術交流会館大講堂で開催した。主に北海道大学、東北大学、東京工業大学、大阪大学、九州大学から 167 名が成果報告会に参加した。平成 23 年度の成果報告会に引き続き、今回も産業界から科学・技術に造詣の深い有識者として大日本印刷株式会社研究開発・事業化推進本部・黒田孝二理事、住友金属鉱山株式会社市川研究所・技術本部先端技術情報部・田中明和所長兼部長、株式会社日本経済新聞社編集局科学技術部・黒川卓氏をお招きしてご参加いただき、大所高所から当アライアンスの活動についてご意見を賜った。

成果報告会は 9 時より、当報告会の担当研究所である北海道大学電子科学研究所・三澤弘明所長による開会の挨拶に始まり、株式会社日本経済新聞社・黒川卓氏から来賓の挨拶を賜った。ついで、平成 24 年度アライアンス運営委員会委員長の東北大学多元物質科学研究所・垣花真人教授によるアライアンス事業の概要と平成 24 年度活動の全体説明が行われた。その後、次世代エレクトロニクスプロジェクトグループ (G1)、新エネルギー材料・デバイスプロジェクトグループ (G2) (以上、午前の部)、医療材料・デバイス・システムプロジェクトグループ (G3)、環境調和材料・デバイスプロジェクトグループ (G4) (以上、午後の部) の順に、各々 5 件ずつ、計 20 件の口頭発表による成果発表と共同研究状況ならびに国際連携に向けた活動の報告が行われ、質疑応答を含めた活発な討論がなされた。昼食時に北海道大学百年記念会館大会議室において成果報告会にご参加の産業界有識者を交えて第 7 回 ナノマクロ物質・デバイス・システム創製アライアンス運営委員会が開催された。産業界有識者の方々からはアライアンス事業全般、国際共同研究の在り方に関して有益なご助言をいただき、有意義な意見交換が交わされた。4 グループの口頭発表の後、口頭発表者以外のアライアンスメンバーによって、G1 から 24 件、G2 から 23 件、G3 から 21 件、G4 から 24 件のポスター発表が行われ、活発なディスカッションが行われた。

ポスターセッション終了後、同会館で懇親会 (140 名参加) が開催された。産業界有識者 2 名の方から講評を含めたご挨拶をいただき、今後のアライアンス事業の展開について産業界からの視点でご助言を賜った。懇親会の最後は、北海道大学電子科学研究所・津田一郎副所長の挨拶をもって閉会した。

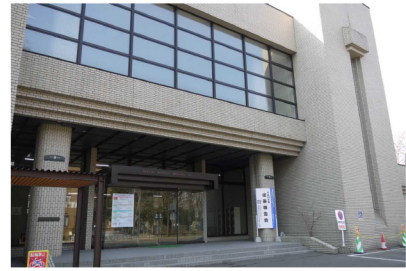
前年度から比べると、当初のアライアンス事業計画である多数の共同研究が格段に進捗しており、また新たな目標である国際連携の取り組みが各グループで着実に進行していることが情報として共有された。これからの基盤として今後の発展に向けた多様な提案や活発な議論がなされたことは、当プロジェクトの活動に対して極めて重要な報告会であった。



平成 24 年度成果報告書



平成 24 年度成果報告会
ポスター



北海道大学学術交流会館



来賓挨拶
大日本印刷株式会社
黒田孝二理事



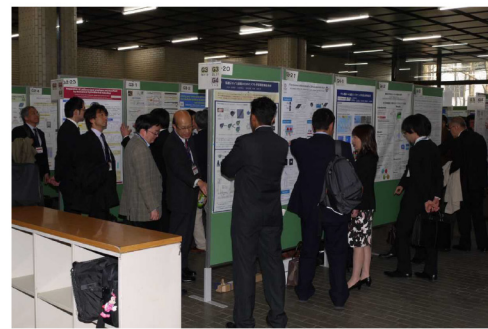
来賓挨拶
住友金属鉱山株式会社
田中明和所長兼部長



来賓挨拶
株式会社日本経済新聞社
黒川卓氏



口頭発表会場



ポスター発表会場



集合写真